

2 大学院

2.1 大学院修士課程

1 大学院修士課程委員会の活動

本学の修士課程は、学際的な専門教育を受け、高度の専門職業人の養成と社会人の再教育を行うことを目標とした特別修士課程として設立された。一方、平成16年度よりの国立大学法人化に際し、全学の委員会である将来設計検討委員会から、現在の特別修士課程を博士課程の一環としてへの再編、専門職大学院への転換・創設が、二本柱として提言された。この提言に沿って、平成14年度に引き続き、修士課程委員会および各研究科レベルにおいて、また博士課程研究科レベルにおいて、種々の改革案や将来設計について議論が行われた。しかし、特に学際的な教育を標榜する研究科においては、この二本柱での改革・再編ではこれまでの教育理念が十分生かされない状況であることも明らかになってきた。平成16年度から始まる中期目標・中期計画においては、可能な研究科では、高度専門職業人の養成を鮮明にした専門職大学院の創設、あるいは現存の博士課程への統合・再編を目指し、一方将来検討委員会の提言に合致しがたい研究科においては、研究科の質・量を更に拡充し、“足腰を強くする”という方向に向かうことにした。そして各研究科において、その教育目標、教育課程の見直しと改善策について全面的な検討が行われた。

研究科レベルでの教育課程の見直しは、地域研究研究科では、留学生向けの1年制英語プログラムの充実を目指した。また、ヤング・リーダース・プログラムの設置に向けて準備を進めた。教育研究科では、平成15年度より、都道府県教育委員会派遣あるいは大学院休業制度を利用した、現職教員を対象とした1年制プログラムを開設した。経営・政策科学研究科では、JICA-JDSによる途上国有職者のキャリアアップに貢献するための国際マネジメントコースを開設した。また企業経営から公共政策にわたる広範な分野において、学外の実務家や実務経験者を招待スピーカー等として招き、講義を行った。理工学研究科においても、ベンチャービジネスラボラトリや産学リエゾン共同研究センターと協力して、外部から実体験を有する講師を招いて、企業家教育に注力した。環境科学研究科では、平成14年度から実施した連携大学院方式が、着実な成果を上げている事が確認された。医科学研究科では、医学専門学群に新設された看護・医療科学類担当の教官を迎えて、関連カリキュラムの整備などを行い、同学類卒業予定者の受け入れ準備に着手した。体育研究科では、平成15年度から新たにスポーツ健康システム・マネジメント専攻を大塚キャンパスに開設した。芸術研究科においては、平成16年度より世界遺産専攻が創設されることになった。

修士課程のこれらの教育実績に対し、外部の評価も高く、芸術研究科では、学生の企画・作品が全国レベルの賞を受け、その活躍が注目され、体育研究科では、学生・教員が世界における競技会等で活躍し、本学の評価を高めている。

一方、社会との連携を強化し優秀な受験者を獲得するため、広報活動を一層強化し、社会に開かれた大学院・大学展への積極的な参加、ポスター、研究科案内、修士課程案内などの広報文書やホームページの整備など、情報発信に努めた。また広報活動の一環として、理工学研究科ではオープンキャンパスを実施した。

2 教員の教育業績評価の状況

本年度は、地域研究研究科、芸術研究科において、これまでの研究科の教育研究活動実績について、外部評価を受け、今後の研究科の拡充と活性化に関する適切な指針を得た。一部の研究科では、学生による授業評価が試みられている。また、各研究科とも人事の活性化に努め、その選考過程に教育業績が重視されている。

3 自己評価と課題

本学の修士課程は、各研究科がそれぞれ特色のある教育研究活動を行っていることに対して、高い社会的評価を得ている。今後は、中期目標・中期計画を着実に実行していくために、これまでの成果と実績を生かしながら時代の要求に応える大胆な将来設計の基に、各研究科の特色を生かした方向に発展させていく必要がある。また、来年度からの国立大学法人化を迎え、本学の組織の中での特別修士課程の位置付けが中期目標・中期計画の実施とともに今後の重要な課題である。